

No.	意見・感想等	意見・感想等
1	十日町市は、度重なる豪雪を克服してきた。そして、地場産業のきもの産業を発展させ、良質なコシヒカリを生産してきた。また、大地の芸術祭や国宝縄文土器、清津峡等の優れた自然は、全国に誇れる資源である。十日町市の誇る様々な良さを市内外の人々に伝える事の出来る生徒を育成する。	十日町の誇れる資源を具体的に掲載することによって、生徒の「ふるさと十日町を大切に考える」事に繋げ、自分の育つ地域の良さを認識し地域を大切に地域愛を育成する事が可能になり、十日町を好きになっていくと考えられるから。
2	「雪を友とし、雪を楽しむ」 雪国の制約は、創造の起点でもあります。四季の豊かさの中で育まれる知恵。雪と共に生きる力。地域に根差した人のつながり。これらこそが最大の教育資源です。本方針は、この“ここにしかない学び”を中学校教育の核に据え、地域と未来を切り拓く力を育む指針です。	現代雪まつりの発祥の地、十日町市が掲げる「雪との闘い」から、「雪を楽しむ」方向へ転換した発想は、この地の財産です。十日町の自然・文化・人の営みを教材化し、子どもたちが主体的に考え、課題に向き合う力を育てる教育は、先人の言葉に習い、継承すべき教育的な独自性があると思いました。
3	豊かな自然の中で、四季の恩恵に共感できる心を養い、古代から受け継ぐ知恵を身近に感じ、創造力を養う。	古代→土器などの歴史をイメージさせる。自然享受→この地域ならではの…自然が素晴らしいから芸術祭は成功しているの。
4	降雪と自然に関わる人の営みによって作られてきた変化に富んだ自然環境は、十日町の人に忍耐強さや感謝の心、共存の大切さを育ててきた。また縄文の時代から脈々と受け継がれてきた生活の知恵、着物文化に代表される進取創造の気概は、新たな文化を生み出す原動力となっている。	雪：忍耐、春の喜び、四季の変化、多様な動植物、農耕文化、自然の営みへの感謝、人との支え合い（争いを避ける、自己主張が苦手） 縄文、着物：常に工夫、新しい物をつくる、美しい物をつくる、県・全国で有数の発明工夫
5	「アートを起点に感性を磨き、自らの意志で未来を拓く力を育む」ことができるのが、この四半世紀現代アートを立ち上げている十日町市の強みである。さらに古くからあるアートと雪国の対話が個の確立と共生を創り出す力となってきた。十日町市全体が「感性の語りと技」の里山（里地）キャンパスとなっている。	市の憲章にもアートが出てくるが、主に技としての意味が強い。しかし近年は技の一步手前にある「感性」が、アートの中心に来て注目される。何故ならば、それは、その子どもが一番最初に発現するものであり、ロボットやAIでは持ち合わせていない人間らしさである。そこから出発する学習であれば、自分自身に「何故そう感じるのか」を問いかけ、自ら進んで学習できるものである。親や教師に言われなくても、自己実現するために、おのずと学習意欲が湧き、主体的な学習に導かれる。このことが忘れられ、無視されてきたから、言わないとできない現状があった。そのため、「感性」を取り上げていくべきである。 ※自動運転車を安全なものにし、宇宙での人工衛星ドッキングに成功したイーロンマスクは言う。そこで使われている部品は日本製であると。中国やロシアのものでは微妙に駄目で、それが命取りのレベルになると。その日本人の技術はどこから来るのか、日本人の伝統に育まれた「感性」（感じ取れる美意識）による。例えば、諸外国では、虹の色は5～6色まで、日本人は7色まで感じ取り表現されていると言われている。